

HAKUA TSŪSHIN

岩手県立盛岡第一高等学校白壁同窓会事務局



2019.12.19 No. 39

〒020-8515 岩手県盛岡市上田 3-2-1
TEL・FAX (019) 624-0765 (白壁記念館)
mail: info@hakua1880.jp
TEL (019) 623-4491 (学校)
<http://www2.iwate-ed.jp/mo1-h/> (学校)
<https://hakua-dousoukai.jp/> (同窓会)

四代目上田校舎
(現校舎) 1999(平成11年)～

令和
元々未来へ

初代内丸校舎

1885(明治18年)～1917(大正6年)



二代目上田校舎

1917(大正6年)～1962(昭和37年)



三代目上田校舎

1962(昭和37年)～1999(平成11年)

創立百四十周年を前に

白聖同窓会会長

藤尾 善一 (昭和45年卒)



会員各位には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度の台風19号で被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

今年の白聖同窓会は、139周年記念として、平成7年次の担当幹事により、盛岡市内のホテルで盛大に執り行われたところです。

各地区同窓会や各クラブの同窓会も多数参加、何よりも最高齢の大先輩、昭和20年卒業の中谷、佐々木両大兄も相変わらずご壮健で参加いただいたことは喜ばしい限りでした。面識のない先輩、後輩同士でも、それぞれのあの頃を追懐しつつ、いたるところで親交を深めることができ、「来るものはみな親し！」の感がありました。

記念講演は新進気鋭の国際派弁護士、穴戸一樹さん(平成7年卒)によるもので、グローバル法務の状況を興味深く拝聴できたところです。

ところで、ご両親もともに同窓生(お父様、昭和38年卒、お母様、同39年卒)ということ、今回一緒に参加していただきましたが、お母様の弟さんは、母校の元教諭にして元硬式野球部監督の川村祥平先生(昭和42年卒)であり、その

下の弟さんは、第50回甲子園大会でベストエイトに勝ち進んだとき、六番ショートで大活躍したのが同期の川村協平君(昭和45年卒)、加えて、一樹さんの弟さんは私が勤務する盛岡市役所の俊英です。こうした縁に出会うのも同窓会ならではです。

さて、来年は、母校はいよいよ140周年を迎えます。今年の8月には、これまでの例にならない、学校、PTA、白聖振興会、白聖同窓会からなる「盛岡一校創立140周年記念事業推進委員会」を発足させました。

総会では、母校の発展と後輩の育成に資する事業を行なうこと、そして所要財源は寄付を募るのではなく年会費の中で賄うことで了承を得たところです。

今後詳細を詰めますが、これまでのところ、主要催事として、記念式典、祝賀会のほか、卒業生による記念講演、SGHの後継事業としての海外派遣、白聖校所蔵展、応援旗祭などがあがっております。

会員の連帯と絆で培われた母校愛の発揮により、母校の更なる発展を期して参りますので、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

「文明ノ先駆ヲナシ、天下ノ大任ヲ負フモノ、此校ヨリ出ヅ」

校長

佐藤 有 (昭和54年卒)



同窓会の皆様方には日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力・ご支援をいただいておりますことに感謝申し上げます。本年4月に校長に就任いたしました昭和54年卒業の佐藤有と申します。本校には先に教諭、副校長としてお世話になりましたが、歴史と伝統に輝く白聖校に再び勤めることの光栄と責任の重さに身の引きしる思いをいたしております。生徒時代を含めて4回わりの在籍となりますが、これまでの関わりに応えるためにも、緊陣一番、精いっぱい努力する所存でございますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、近年、教育現場へのAI導入など急速な進展に伴い、人工知能が人間の職業を奪ってしまうのではないかと、今学校で教えていることは時代が変化したら通用しなくなるのではないかと、世の中には、「どんなに社会が変化しようとも、時代を超えて変わらない、価値のあるもの」と「時代の変化とともに変えていく必要があるもの」があります。令和の新しい時代、学校現場においても様々な改革が求められていますが、教育の理念を真摯に受け止め、目の前の事象に振り回されることがなく、不易流行、時代とともに変えていかなければならないもの、また、変えてはならないものを問い続けながら、学校経営に携わっていきたくと考えています。

「時代の先駆者として社会に貢献する人材の育成」することは、本校の教育目標ですが、明治13年の本校開学式にあたって、初代校長の浦地弥太郎校長は、「他日文明ノ先駆ヲナシ、天下ノ大任ヲ負フモノ焉ゾ此校ヨリ出ザルヲ知

ランヤ」と述べています。この学校から、将来、時代の先駆者として国家や社会のリーダーとして活躍する優れた人材が必ず輩出すると強い気概をもった開校したと聞いています。その予言どおり、明治・大正・昭和・平成の歴史を積み重ね、各界、第一線で活躍する多くの先人、人材を輩出してまいりました。

そして現在、文部科学省から指定のスーパーグローバル・ハイスクール(SGH)事業の指定を受け、国内外の課題に目を向けて、調査・議論・検証を通じて課題解決を図る探究活動をはじめ様々な取組を行っています。11月には、台湾に生徒を派遣し、現地におけるフィールドワークや現地高校生とグローバル課題について意見交換などを行い、その様子は現地のメディアにも取り上げられました。今まさに、科学技術と人間の創造・想像力を融和させ、新しい価値を創造することが求められておりますが、本校にはそのバイオニアとなる人材を育成する使命が課せられております。この事業は今年度で終了となりますが、次年度以降もこれまでの成果をさらに深化拡充させ、21世紀の理想的な社会を開拓し得る人材の育成に努めてまいりたいと考えています。創立以来、文武両道、隆々発展を重ねてきた本校は、来年140周年の記念すべき節目を迎えます。同窓生の皆様や、在校生諸君の母校、盛岡一高に対する熱い思いを結実させて、白聖校が未来永劫、輝き、邁進し続ける願いを込めて事業を推進していきます。皆様の特段のご支援ご指導を賜りますようお願いいたします。

総会報告

平成7年次代表

安保
寬明

◎日時／令和元年10月12日(土) ◎時間／午後1時～午後5時
◎会場／ホテルメトロポリタンニューウイング ◎参加者／148名

去る10月12日(土)創立139周年令和元年度白聖同窓会総会が、盛岡市ホテルメトロポリタンニッウイングにて開催されました。まさに台風19号が上陸せんとする日での開催となり、この影響で、出席予定の会員も来場できなくなつた方が多数いるとも聞ておきました。かくいう私も、年次代表で総会の議長を務める予定でしたが、出張先のボローニャからの便が足止めになり、総会への出席ができませんでした。そのような状況でしたが、幹事学年である平成7年卒業生は20名以上が運営に参加し、総会の部、講演会の部、懇親会の部の三部構成での例年通りの開催ができました。

総会の部では、藤尾善一同窓会長、佐藤有校長の挨拶の後に、議案審議が行われました。総会の進行は、議長として村上法子（平成7年卒）、副議長として藤原伸也（平成8年卒）が選出されました。事務局から会務報告があり、第1号議案「平成30年度事業報告について」、第2号議案「平成30年度決算報告について」、第3号議案「令和元年度事業計画について」、第4号議案「令和元年度予算について」、第5号議案「創立140周年に向けての記念式典開催および10年小史の発行について」の5議案について上程され、審議のうえで承認されました。

講演会の部では、平成7年次卒業生でもある穴戸一樹くんを演者として招聘し、「グローバル法務の最前線」と題する講演が行われました。国際的な分務活動の例としてスポーツの分

野を例示し、言語や文化を超えた交流や創造に向けた貢献が紹介されました。また、白聖校での経験やつながりも紹介され、同窓会総会らしい講演でもありました。詳しくは本白聖通信内の講演録をご覧ください。

懇親会の部では、村晶子同窓会副会長による開会宣言、藤尾善一同窓会長の挨拶に続いて30年卒の藤原浩様による乾杯の3発声により懇親会の幕が開けました。同窓生との再会や世代間の交流も密に行われて楽しい時間であつたと聞き及んでおります。締めくくりに平成7年次卒業団長竹内嘉次郎くんを筆頭に、菅原正森くん、野村耕一くんのリードと柏館俊明くんの太鼓によつて校歌斉唱と母校である岩手県立盛岡第一高等学校へのエールを行い、大きく盛り上がりました。阿部弘一会長との閉会宣言により懇親会と総会の一切が終了となりました。

今回の同窓会の運営にあたり、平成7年次卒業生では、司会として日山涉くんと圓子祐司くん、受付の取りまとめを赤井洋平くん、応援団のマネジメントを藤澤義友くんがおこない、台風による影響を感じさせない運営でした。また、同窓会事務局をはじめ多くの諸先輩、同級生、後輩のお力をいただきました。この場を借りてすべての方に御礼申し上げます。

あらためて関係者各位と同窓生の会員各位に御礼申し上げますとともに、白聖同窓会の今後の発展を祈念いたしまして、報告いたします。ありがとうございました。

令和元年度白聖同窓会一般会計予算

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	10,000.00	8,800.00	1,200.00	平成31年(令和元)度分5,000件
入会金	562.00	558.00	4.00	3学年分(281名×200円×10ヶ月)
予納金	1,470.80	1,474.80	-4.00	1学年(285名×240円×10ヶ月) 2学年(281名×240円×10ヶ月) 3学年(281名× 40円×10ヶ月)
繰入金	2,813.90	21,000.00	-18,186.10	平成30年度名簿会計より
繰越金	623.444	1,904.008	-1,280.564	前年度一般会計より
雑収入	856	11,092	-10,236	預金利息、宛名シール代
計	15,471.000	33,747.900	-18,276.900	

支出

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
事務費	280,000	280,000	0	事務用品(封筒トナー等含)、 郵送代払込手数料、建物共済加入負担金、 記念館施設使用光熱水電代
慶用費	250,000	200,000	50,000	各白壁会派道祝会、会議参加費、弔禮代
旅費	300,000	200,000	100,000	各白壁会派道旅費
会議費	380,000	280,000	100,000	卒業年代次代表者会議、役員会、各委員会会議
総会関係費	600,000	600,000	0	総会資料作成費、総会代金等補助金、 講演者謝礼
事業費	680,000	1,418,000	-738,000	新入生入学記念品代、ウェブサイト管理運用
キリツツ雑誌	150,000	150,000	0	
名簿作成費	1,260,000	0	1,260,000	令和2年3月改訂版在校生分買取
会報刊行費	3,200,000	3,000,000	200,000	39号発刊代、全会員への郵送代
事務局員費	1,487,000	1,487,000	0	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白壁振興会へ
財産積立繰入金	1,000,000	0	1,000,000	140周年事業積立、夜間照明塔修繕費積立
140周年事業費負担金(役務)	1,000,000	0	1,000,000	
部活動等奨励費	1,600,000	1,800,000	-200,000	
夜間照明設備費	500,000	22,000,000	-21,500,000	夜間照明設備特別会計へ
会費振込手数料	650,000	572,000	78,000	5,000件×130円
予備費	634,000	260,900	373,100	
計	15,471,000	33,747,900	-18,276,900	

平成30年度白聖同窓会一般会計決算

科 目	予算額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	8,800,000	8,892,000	92,000	平成30年度入金 4,446件
入会金	558,000	555,000	-3,000	3学年分
予納金	1,474,800	1,459,800	-15,000	1・2・3学年分
繰入金	21,000,000	21,000,000	0	
繰越金	1,904,008	1,904,008	0	29年度より
雑収入	11,092	188,074	176,982	預金利息、宛名シール代
計	33,747,900	33,998,882	250,982	

支出

科 目	予算額	支出済額	増 減	摘 要
事務費		348,921	-68,921	事務用品(封筒・ノリ等) 140,387円 電話代 127,373円(通信費含) 残高確認書代 2,592円 郵送代(切手代)70,538円、払込手数料 1,080円 建物共済加入負担金 14円、電報料 4,320円 記念贈品設置用光熱水量代 2,617円
慶弔費	200,000	254,610	-54,610	各白壁会派遣祝金、会議参加費、弔電代
旅費	200,000	335,388	-135,388	各白壁会派遣旅費
会議費	280,000	328,579	-48,579	役員、常任幹事、年次代表者会、編集、名簿 ウェブサイト 各委員会会議
事業費	1,418,000	1,412,640	5,360	新入生入学生記念品代、応援旗、ウェブサイト代
総会関係費	600,000	553,224	46,776	総会資料作成代、主管年次及び総会代金等 補助金、講演者謝礼、物品使用代
キャリアアップ総経	150,000	58,809	91,191	1学年
名簿作成費	0	0	0	
会報刊行費	3,000,000	3,210,683	-210,683	38号発行、会員へ郵送
事務局員費	1,487,000	1,490,954	-3,954	事務局員給料、退職積立金、健康診断代
国際交流費	1,500,000	1,500,000	0	白壁振興会へ
財産独立繰入金	0	0	0	
部活動等奨励費	1,800,000	1,410,000	390,000	
夜間照明設備費	22,000,000	22,000,000	0	夜間照明設備特別会計へ
会費払込手数料	572,000	471,630	100,370	
予備費	260,900	0	260,900	
次年度繰越金	0	623,444	-623,444	
計	33,747,900	33,998,882	-250,982	

収入済額	-	支出済額	=	差引残高(繰越金)	今年度より次年度繰越金を支出表内に表記しておりますので、差引残高が0となります。
33,998,882		33,998,882		0	

令和元年度白聖同窓会新役員

会副 会副 会副 監副 監副	長 會 會 會 會 事 事 事 事 事	藤 林 阿 高 佐 千 吉 工	尾 部 橋 藤 葉 田 藤	善 晶 弘 瑞 雄 重	一子(昭和45年卒)	再任	(校長)	常任幹事	高橋瑛至(昭和40年卒)	再任
					(昭和46年卒)	再任		常任幹事	木村みな子(昭和45年卒)	再任
					(昭和50年卒)	再任		常任幹事	中野孝之助(昭和48年卒)	再任
					(昭和52年卒)	再任		常任幹事	内山篤美(昭和49年卒)	再任
					(昭和54年卒)	新任		常任幹事	藤澤和義(昭和52年卒)	新任
					(昭和41年卒)	再任		常任幹事	菊地研也(昭和53年卒)	再任
					(昭和45年卒)	再任		常任幹事	佐久山衛(昭和61年卒)	再任
					(昭和50年卒)	再任		常任幹事	谷地館勝(平成元年卒)	再任
								常任幹事	大森健一(平成2年卒)	新任
								常任幹事	早野俊一郎(平成13年卒)	再任
		常任幹事	阿部圭次(昭和56年卒)	再任	(副校長)					

同窓会だより

卒業してから半世紀

菊池 純朗・丸岡 裕作（昭和44年卒幹事）

昭和44年に卒業した我々の学年は毎年8月第2土曜日に同級会を開催しています。名前はその卒業年度にちなんで「獅子の会」。年度の代表幹事阿部栄一君をはじめとし、数年ごとの持ち回りで幹事団を編成して準備・運営をしています。

昨年の参加呼びかけスローガンは「あの興奮から半世紀」。我々が3年生だったあの夏の甲子園での野球部の活躍に「血湧き」「肉踊り」「声帯も破れよと声を張りあげた」あの時を思い出し集おうという趣旨です。

初戦は不戦勝、二回戦は徳島の鴨島商業、三回戦はなんと前年の春の選抜大会優勝校の大分津久見高校を9対4で撃破。盛岡の市民にとってはあまり違和感の無かった弊衣破帽姿、太鼓と笛声だけの応援も甲子園球場に来ていた観客の人たちだけでなく世の人々を驚かせ、また旧制高校出身の大先輩たちからは大いに懐かしがられたものでした。

そんな大活躍でしたから新大阪駅の地下通路をその姿で腰に手ぬぐい、みんな足駄が下駄ですからガランゴロン・ガランゴロンとコンクリートのトンネルに響き渡る音は「盛岡一高ここにあり」と誇らしいものでした。

今年は「卒業してから半世紀」と銘打って開催しました。参加者は47人でした。本会には、恩師の高橋力先生にご出席を賜りました。先生は今年卒寿を迎えられ、大変お元気で、勇気づけられる温かいお言葉をいただきました。

また、昨年は、高橋力先生の国語の授業を開催しました。この授業は、同窓生20人が茶房「time&space 愛宕下」に集い行われました。未だ饗鏝（かくしゃく）たる力先生

「皆さんには本を読め、勉強しろと言った手前、自分も死ぬまで勉強しなければならぬ」と思い日々を過ごしています」

「盛岡一高という学校は本当に素晴らしい学



校で、生徒の皆さんからたくさんのお話を聞いていただき幸せな教師生活でした」とのお言葉をいただきました。

また、我々は、有志によるゴルフの会「白獅子会」を毎年春秋の2回開催しています。今年で開催から10周年を迎えました。今年の秋は、名門の栗駒ゴルフ倶楽部で行い、松林の綺麗なコースで白球を追い楽しみました。毎年1人、2人と欠けてく中、いつまでできるか？挑戦です。

来年の「獅子の会」では、「古希を祝う会」と銘打って例年になく大々的に開催する予定にしています。100人超えを目指して幹事は今から作戦を練っています。我々は、令和の時代においても、力を結集し元気で活動していきたいと考えています。

同窓会だより

令和元年霜月某日：

工藤 嘉英（平成元年卒年次代表）

「30周年で集まったと思うんですけどその時の様子とかを白聖通信に：」との事務局からの電話に「いや、特に30周年だからと集まっていけないですよ」と答えた後の僅かな沈黙。予想もしなかった答えと理解し難い存在に出会ってしまったかのような（汗）。

あー、まあ、一般的には何十周年って記念行事にして盛大にやりますもんねー（大汗）。

そこは同窓会総会の幹事担当当年に在学時の学生服を纏った「コスプレ議長」が出てくるような年次ですので、はい。

そもそも、在学中から紅白しましまの「はちまき手ぬぐい」を作ったり、土人踊り（当時。現「猛者踊り」）でゲリ幹（ゲリラ幹部の略。2年生有志による。通常、剣と盾を装備し、先発隊（当時。現在は「白聖団」でしたっけ？）において1年生の統率補助を行い、部族の戦士階級という位置づけから運動会当日は部族間全面戦争の前にゲリ幹のみでの戦闘（一種のソロバトル、独演？）を行う）に槍・棒術部隊を創設、新任の先生（OB）に土人踊りに参加いただいたり、高総体開会式が雨で流れたために第二体育館（当時）で一度だけ披露した幻の「太鼓エール（バットエールの太鼓版、要員2名必要）」を考案したりとちよっと変：もとい、おかし：いやいや、独創的な

（？）。

30周年で同期会を開催しなかった理由、当年次の同期会は夏のオリンピックに合わせた4年周期なので30周年は時機が合わなかったんです。オリンピックに合わせたのは「卒業〇〇周年」って普段の生活の中で意識してる人って少ないよね、と卒業時に懸念しましてオリンピックなら幹事が呼びかけるまでもなく世間が盛り上がる、ならばそれに合わせて開催することとで「オリンピックⅡ同期会」と習慣づけられ：パプロフのなんとやら？

そんな訳で30周年記念同期会は開催しておりませんが来年、2020年は定例の同期会開催年にあたります。同時に殆どの同期生が50代に足を踏み入れる年でもあります。定年延長や再雇用で70代になっても働かされそうな世情ですが、次代に何かを残すには引退よりかなり前、元気が残っている物事を動かす実権を持っている間に動き始めないとね。

ま、真面目な行動は優秀な同期諸氏にお願いするとして、オラは「こんな変なおっさんでも首も括らず生きていられるぞ」と言う希望を後世に残すという事で：

え？ふざけるな？ふたつける？いやあ、おもさげね。字数が尽きたようなので失礼するす。んだば！



一高のランドマーク
天体ドーム



生徒が撮影した土星

特集

もっと母校に行ってみませんか？

改元、ラクビーW杯、盛岡シティマソンなど令和元年号は、多くの出来事がありました。天体イベントも盛りだくさんでした。はやぶさ2や探査機ニューホライズンズ、部分日食、多くの流星群、宇宙旅行計画など。

人類にとって宇宙は相変わらず特別な場所です。

卒業して様々な経験を重ねましたが、私には一高は特別な場所です。そんな母校ですが、卒業してから入ることもなく、新校舎がどのような感じなのかまったく分かりません。ずっと気になっていました。そんな私にとっておきのイベント告知がありました。

全国大会に出場もしている天文部が毎年定期開催している「星を見る会」に10月4日、参加してきました。

■星を見る会、当日

当日は、台風接近中にも関わらず、小学生から年配のアマチュア天文家と幅広く10数名が参加しておりました。台風による影響のため残念ながら予定されていたイベントを縮小しての開催となったものの、現役部員からは、若々しさ溢れる天体観測の発表に加え、自作プラネタリウムを使い、神話を交えて秋の夜空と星座についての解説などがありました。30名を超える部員を抱える天文部員の工夫を随所に感じる内容でした。

新校舎になった際には一度白紙になりましたが、さまざまなひとの尽力により建設がきまったものが遠くからも見える立派な天文台。学校設備として天体ドームを持つだけでも珍しいと思います。そ

の内部にはまるで専門施設のような大きな直径200mmの屈折式望遠鏡がありました。実際のドーム開閉稼働は悪天候のため拝見できませんでした。この望遠鏡は、地球の自転に合わせて動き観測出来る設備を有していることは大変驚くものでした。私も含め初めて見るという参加者が、盛んにシャッターを切っていたのも頷けました。ドーム開閉は次回への楽しみにしたいと思いました。

卒業を境に、すっかり足が遠くなっていた母校の訪問でしたが、観測設備に限らず、エレベーターや発電計など現代的な設備が見え、こちらにも大いに驚かされました。とはいえ、校門の風景や教室の雰囲気は懐かしさを感じられるものがあり、ひと時ながら日常を忘れ、当時の思い出出す時間ともなりました。

■昔と今

時を経て、姿を変えながらも、それぞれの時代を見続け、母校は多くの先人を輩出してきました。2020年、2度目の東京オリンピックを開催するその年、母校は『創立140周年』を迎えます。訪問のきっかけとしては最適な年ではないでしょうか？

現校舎の4階には、岩手山を一望できるテラスが設けられていました。そこから望む岩鷲山は、変わらぬ面影をそのままに、見る人を高校生当時へ呼び戻すと思います。オトナになった現在はまだ違った想いに気づかせてくれるかもしれません。

ぜひ一高に立ち寄ってみてはいかがでしょうか？

*来年度の「星を見る会」の予定は、一高ホームページを確認



迫力の200mm 屈折式望遠鏡

特別講演

「グローバル法務の最前線」

講師／穴戸 一樹氏（平成7年卒）
（しと かずき）

弁護士法人瓜生・糸賀法律事務所
パートナー弁護士

このたびは、歴史ある白聖同窓会の場合に講師としてお招きいただき、誠にありがとうございます。

本日のテーマは三つです。まず日本の法律事務所が世界的に展開するに至った背景についてご説明します。次にグローバル法務がどのような分野を対象として行われているのかを簡単に紹介し、その上で幾つか特殊な法務分野について取り上げていきたいと思います。

一 グローバル法務の背景

まず法律事務所とは何かをお話しします。現在弁護士は日本に四万数千人おり、中でも国際的な業務を行っている事務所は、業界では一般に国際法律事務所または涉外法律事務所と呼ばれています。実際の業務はインバウンド（海外から国内へ来るお客さんをお客とする）とアウトバウンド（国内のお客さんが海外に行くのを相手とする）に大別できます。以下、これらの業務との関係において、我が国の国際法律事務所がどのように発展してきたのかを簡単に見ていきます。

開国～戦後～八〇年代

涉外事務所や涉外法律事務所ができたのは幕末の開国後です。明治時代、一八七〇年代になると弁護士（当時は代言人）の中に英語やフランス語を学んで涉外業務を行う方が現れました。その先駆けは英吉利法律学校（現・中央大学）の初代校長、増島六一郎先生です。その後、戦後から

一九六〇年ぐらいまでは外資系の法律事務所が涉外業務をほぼ独占していました。戦後一九四九年に弁護士法で日本の弁護士資格を持った人しか法律業務を行ってはいけなと定められましたが、経過措置によりしばらくの間は外国の弁護士が日本で活躍していました。

六〇年代の後半、高度経済成長期には日本の弁護士による涉外業務の開拓が盛んに行われるようになり、七〇年代から八〇年代にかけて日本の弁護士による涉外法律業務が全盛期を迎えます。

九〇～二〇〇〇年代

九〇年代に入るとバブル崩壊など我が国の景気の大変な変化とも相まって、業界内に大きな変化が見られました。いわゆる大手の法律事務所が規模拡大を進めていき、特に大手涉外法律事務所が、涉外業務だけではなく国内業務の比重をも高めていきました。他方、この時期には外弁法という形で、我が国において外国の弁護士が日本の法律事務所とパートナーを組み、日本で法律業務を営むことが認められたのです。

そして二〇〇〇年代、私が弁護士になったのは二〇〇〇年ですが、その後状況は一気に変わっていききました。司法制度改革の一環で日本の弁護士の数を増やそうという動きが始まり、ロースクールができました。その中で大手の涉外法律事務所が中小の法律事務所を合併・買収等で吸収し、規模を拡大していききます。この時期、ついに外弁法の改正で外国の弁護士が日本の弁護士を雇用することが自由化されました。これにより日本の法律業務を海外に明け渡すことができるを得なくなりました。しかも日本国内の弁護士が増えていくという状況に突入していききます。さらに外資系の法律事務所は二〇〇三年にあり、今日までに日本の事務所が大規模化していききました。

二〇〇〇年代～中国との関係

このような状況の中で、我が国においては第三次中国投資ブームが二〇〇〇年ぐらいから起きました。従来の中国の外資の導

入政策は、中国の安い労働力を利用して製造のコストを下げていきたいという日本企業や外国企業の思惑がまずあり、外国の高度な技術を吸収して、製品の輸出による高貨獲得を図りたい中国の政府との思惑が合致した形で、中国の生産についての規制緩和がなされていきました。当時の日本企業の進出は、基本的には中国で物を作って世界に売るという形の生産型企業がほとんどでした。業種によっては出資比率の制限や規制もありました。

それが二〇〇一年の中国のWTO加盟により、従前は規制業種であった流通業やサービス業、または製造業以外の他の分野についても、外国企業に対して門戸開放が一致に行われます。その後二〇〇五年には反日運動が激化し、いわゆるチャイナリスクが騒がれるようになって、チャイナプラスワンを考えていくという話がなされてきました。この頃ベトナムがWTOに加盟するという話もあり、日本企業が一気に中国以外に目を向け出しました。

この当時、日本では司法試験の合格者が倍増以上になって、二千人ぐらいになる。どんなに弁護士は増えていきます。他方で日本国内の市場は、少子高齢化で小さくなっていきます。弁護士事務所ももう雇えませんが、その中での、そのたぐさんの合格者をどこに振り分けるのが問題となってきたのが二〇〇七年ぐらいからです。

そして二〇〇九年のリーマンショックにより、元々弁護士業が盛んだった英米も打撃を受けます。欧米系の資本が日本から次々と撤退し、日本でも最大の英米系の事務所が半分以上弁護士をリストラするという前代未聞の出来事もありました。

他方、欧米系の資本がなくなっていく中で、中国のポリシーが大きく変わりました。昔は中国語の「引進來（インジンライ）」の中に引き込んでいくというポリシーだったのが、「走出去（ゾウチュチ）」、外に出していくこと。中国は、もう変わった、技術は十分取ったのだと。だからその中国の技術、資本で世界へ出ていくという動きが、二〇〇九年ぐらいから顕著になりました。その後、一帯一路ということで、中央アジア

アもしくはシルクロードは全て中国の庭だという形で、今彼らはどんどん出ていっています。そこら辺の彼らの自信は、WTO加盟から一気に得てきた技術、外貨または中国の中の司法も含めたいろいろな人材の成果だと理解しています。

そのような状況ですが、日本の飲食業や小売業という内需産業は、少子高齢化で国内市場が縮小してきたということもあり、中国の十何億人の市場を狙いました。そこに日本の法律事務所も波に乗ろうということで、弁護士たちにとっても中国ビジネスがドル箱のようになっていきました。（中略）

アジア法務の重要性

なぜアジア法務が我々日本の弁護士にとって魅力的だったか。元々日本企業の投資先は、基本的には北米、ヨーロッパというのがずっと多かったのです。それを日本の弁護士が助ければよいのではと思われるが、実際には我が国の涉外法務発展の歴史は、そうはなっていません。

英米には巨大法律事務所があります。国をまたぐ案件はこうした巨大事務所の独壇場です。これに対してアジア諸国は二〇一〇年の時点では、リーガルサービスが発展途上の国です。現地の弁護士や法律事務所の能力、資格についてもまだ未成熟でした。また、必ずしも英語でビジネスが完結するわけではありません。現地語の壁や現地の文化があり、この意味では英米の法律事務所と我々も同じですから、戦う余地がありました。さらに漢字文化圏、こと中国やベトナム、韓国、台湾、香港は、元の法律用語がほとんど日本から入っています。我々も勉強すれば現地語が読めるようになる国々ですので、我々にとって非常にアドバンテージがありました。

日本の法律事務所も世界へ

二〇一〇年以降、さらに外弁法が緩和されて、外国人の弁護士が日本にどんどん入りやすくなっていく。でも日本では外国の弁護士は法廷に立てない。これは大前提ですが、今まさに日弁連で改革を進めており、仲裁という裁判外の紛争解決手続は、外国



の弁護士が日本でできるようにしようという方向で動いており、日本の弁護士と外国の弁護士が、日本国内で本当に競争するような状態になってきています。外弁法の改正と相まって、また法曹人口が増え、弁護士は今四万人を超えています。

そのような中で、さらにグローバルコンプライアンスという形で、日本企業が全世界で支店や子会社の法律の運営の適正を担保しなければいけないという状況になっています。(中略)

このような状況の中で日本の法律事務所は、世界にどんどん出ていこうとしています。二〇一一年には、北京とかニューヨーク、上海ぐらいにしかなかった事務所が、どんどん世界に出ていっています。日本だけでなく世界各国を、日本の各事務所がモザイクのように押さえていくのがこれからの時代だと考えております。

二 グローバル法務の概要

グローバル法務とは具体的にどういうものがあるかというと、クロスボーダー(進出・撤退、M&A、越境商取引等)、ローカル(業法・契約・労務問題・紛争等)、そして本社業務(経営判断、子会社管理、不正調査等)があります。この他伝統的な業務としては、知的財産や資源、発電や道路、鉄道の海外輸出も業務範囲に入っています。また、やや特殊な話として、経済制裁、輸出規制、通商、アンチダンピングにも関わることがあります。

海外に関するグローバル法務の一例として、アジアの投資業務、クロスボーダーの例を挙げます。例えば中国とかベトナムにお客さんが出たいという場合、現地のどの都市でどういう需要があり、どういう法規制があるかということをお客さんが調べ、それで採算が取れるのかというフィジビリティ・スタディーを行います。そして外資規制をクリアしながら、現地法人設立、工場の開設を行い、その中でさらにM&Aとか、現地で業務提携、ライセンスをして移転価格に気を付けながら配当を吸い上げたり、いろいろな形で日本へ利益を還元し、そして駄目になったら事業撤退するという、いわゆるゆりかごから墓場までという形でずっとお手伝いするというのが、アジアで私どもがやっている業務の一つです。

またローカルの業務の例としては、一般企業法務ということで現地の法律の調査、現地の株主総会や取締役会の運営支援、もしくは労働問題ということで現地法のアドバイスをする場合があります。ただこれは現地の国の法律の話になるので、日本の弁護士だけでは完結せず、これをどうクリアしていくかが我々の課題でした。(中略)

さらに本社業務の一例を挙げますと、特にEUの独禁法、競争法や贈賄の防止法、さらに個人情報データ移転、いわゆるGDPRです。欧州のデータ保護法について、これを守らない企業は大変なことになるとずっと言われていて、日本企業も世界規模で対策をしてきました。

三 特殊なグローバル法務 スポーツ法について

特殊なグローバル法務の例としてスポーツ法についてお話しできればと思います。世界規模でスポーツ法が、国際的な慣行として成立します。顕著な例としてはスポーツエージェント、放映権契約・商品化契約、反アンブッシュ・マーケティング(大きなイベントのブランドを便乗商法から守る)があります。

また各種大会、オリンピックが顕著ですが、招致活動自体が非常に法的な問題をはらみます。これをなによりにしている国際コンサルタントや法律事務所もあります。

これとはまた別の話として、スポーツ紛争の解決があります。選手選考や資格停止、移籍問題などについてもめるときに、裁判では通常扱わないとされているものを調停・仲裁という場で解決しようという流れが、千葉選手選考の事件をきっかけに日本でも盛んになりました。今、日本では日本スポーツ仲裁機構というところがあり、世界でもいろいろなスポーツ仲裁の機関が存在しています。

アンチ・ドーピングという世界は、かつてはベン・ジョンソンやマラドーナ、今はシヤラポワやバク・テファンなどいろいろな選手がドーピング違反で引つ掛かって、それについて制裁措置を食らっています。日本国内にも同じような仕組みがあります。ドーピングは、世界的に同じような仕組みで動く、いわゆるグローバルハーモナイズーションをやらなければなりません。それで、世界を見ながら、世界の裁判例を使っている日本でも判断するという仕組みに今なっています。私は、日本のアンチ・ドーピングの世界のパネル委員といいますが、裁判官を十数年務めています。日本国内のレベルのアスリートが何かをやったときはこちらに来ます。

最後にスポーツ紛争の枠組みについて若干お話しします。スポーツ紛争の解決はいろいろな規模、いろいろな団体で処理します。オリンピック・パラリンピック委員会の本部はスイスのローザンヌにあります。ここがまずオリンピック関係の案件の処理

に関わってきます。国際規模でオリンピックに出てくるような競技連盟は、大体欧米主導で動いています。公用語が英語とフランス語ということで、残念ながらやはり日本人にとっては非常にハンデがある状態です。また、スポーツの仲裁の事件も、日本国内で解決できないものは、最後はスイスのローザンヌにあるスポーツ仲裁裁判所(CAS)でやります。私どもの事務所でも、去年一人、日本のある競技団体の代理でローザンヌまで行きました。

東京オリンピック・パラリンピックに向けて

日本では日本アンチ・ドーピング機構が精力的な活動を行っています。二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックでは、IOCとかCASが日本に仲裁廷を暫定的に作ります。そこに世界のトップの仲裁人を連れてきて、その人たちに判断させます。日本からも恐らく一人選ばれるだろうということも挙がっていますが、世界各国のアスリートとどう向き合うのか。それと並行して、我々弁護士会の方でもスポーツ仲裁機構と一緒にプロボノ(専門的な知識や技能を活かして行う社会貢献)活動を行います。私も含めて、オリンピックの大会期間中ずっと待機して、何か起きたときには法律相談に直ちに応じます。

私の場合はアンチ・ドーピングということで、ドーピングに引つ掛かったら、その人の相談を無償で受ける仕組みを今作ろうとしています。他に実際に仲裁の世界に立って、代理人として活動する人も募集しています。これは、ただでずつと二カ月間待機してやらなくてはいけないブラックバイトだということで、ちょっと前にすごく騒がれたりもしました。我々からすると、宣伝活動というよりは、スポーツの世界にずっと関わってきた中で恩返しのような面もあって、これを楽しみにしている状況です。

ちょっと駆け足でしたが、グローバル法務ということで、お話をさせていただきました。本日は、ご清聴ありがとうございました。

特集

食を通じて人を繋げる



創業から44年。現在は年に数回イベント等で焼き鳥を焼いたりしています。

今回は1975年9月4日創業、「戦陣焼鳥 秀吉」。

戦陣？「戦国焼鳥 秀吉」では？と思いの方もいらっしゃるでしょう。

現在会長である渡邊史朗さん（昭和42年卒）が脱サラし、福岡の焼鳥店に修行しに行ったお店の名が「戦陣焼鳥 秀吉」だったそうです。近くには「信長本家」「戦国焼鳥 家康」と名だたる武将のお店があり、太鼓をたたくスタイル、ドラをたたくスタイルもあったそうです。そこで暖簾分けして頂き、盛岡の地にホラ貝を吹くスタイルの「戦国焼鳥 秀吉」が出来たのが44年前。今では焼鳥屋のほか飲食店を合計5店舗、食材を販売する事業などを盛岡一高卒の3兄弟中心に行っており

ます。

生産者とお客様を繋げる先導者

2011年3月11日、誰もが悲しみに明け暮れた一日。孤独という心の傷を癒すのは「食」という名の希望。渡邊家の長女である近藤里沙（旧姓 渡邊里沙 平成9年卒）さんは震災前の2008年、誰もが知る優良企業を辞め盛岡に帰ってきます。

元々、環境問題の解決に対し食が重要なファクターではないかと考えていた事、自然が近くにあるという事が合致した結果、地元岩手で事業を展開します。



秀吉公式ホームページ QRコード

「食で岩手を繋ぐ」

食材を販売する事業を立ち上げ、少しずつ拡大していった矢先での震災。生産すら大変だというのに、追い打ちをかけた「風評被害」。さらに沿岸での魚介類の養殖は出荷までに2〜3年かかるため、漁業を再開してもすぐに収入が得られるわけではないのです。そんな状況を救ったのが、里沙さんの強い思いに賛同する仲間の方たちでした。

「私たちは被災地に何もする事が出来ないが、里沙さんに力を貸す事が出来る！」仲間の方々が里沙さんに協力し、里沙さんが生産者につなぐ。その時はなかったであろう、クラウドファンディングが必然の行動として行われました。代表例と致しますと陸前高田市広田湾 奇跡の

牡蠣 佐々木真さんの牡蠣の養殖をオーナー制にするという斬新なアイデアが閃き、すぐさま行動に移し、生産者をサポートするオーナーを全国に拡げ、生産者と繋いでいきました。



3年かけてつくる牡蠣はとっても大きくふりぶり！生産者と岩手の自然環境が生み出す食材を多くの人に届けています。



olohono QRコード
ここから県内の食材が買えます。

**つくる人（生産者） つなぐ人（事業者）
たべる人（消費者）**

秀吉としての事業は「食」全ての分野で進行中です。飲食店を経営している視点から、飲食店向けの食材販売も展開しています。次男渡邊昌也さん（平成12年卒）は一度盛岡に戻るも、岩手の食材を全国に届けたい!!と、再び東京に戻り、岩手の食の営業マンとして飛び回っています。都内で岩手の食が食べられる場所が増えています。単に食材を販売するだけではなく、生産者と料理人を繋ぐ活動やイベントなども開催しています。長男である渡邊史隆さん（平成6年卒）が社長としてリーダーシップを発揮し、長女里沙さん、次男昌也さんが新たな食のシステムを構築する。3兄弟のチームワークが岩手の未来を変えようとしています。



長女 里沙さんと次男 昌也さん



岩手の食材を食べられるお店一覧 QRコード

最後に、様々な話を聞きましたが日本の食料自給率を聞いてちよっと考えさせられました。
39%：61%は他国からに頼っている現状。未来の岩手を考えるのであれば、やはり地産地消が重要になってくると感じました。「秀吉」は食を通じて、私たちにパワーをくれる事だけでなく未来の私たちの在り方を提案してくれているのではないかと感じる取材になりました。

取材／鈴木 真吾、吉田 真雄、大森 由希江（平成11年卒）



白聖の翼 報告



主観的な異文化体験

2年3組 石川 萌恵子

私は、白聖の翼のメンバーとして約1か月間イギリスで貴重な体験をさせていただきました。私にとって今が初めての海外ということもあり、不安な部分もありましたが、たくさんの人たちに支えられながら、充実した日々を過ごすことができました。

私はこの体験で、コミュニケーションにおいて大切なことを学ぶことができました。それは、当たり前ですが、相手にはっきりと誠意をもって伝えること、そして相手の話していることをしっかりと聞くこと、聞くことする態度です。私の英語力が乏しいために、伝えたいことをうまく英語に伝えることができませんでした。しかし、ホストファミリーや先生方は私が話したいことを理解しようとしてくれました。また、わかりやすくゆっくりと話してくれました。わからないことがあっても、お互いが理解し合おうと思うことが大切だと思いました。英語でのコミュニケーションでこのことを学びましたが、日本語でも同じことがいえると思いました。むしろ、使い慣れている言語の方でこの意識が薄れているのではないかと感じました。

外国について客観的に知ることは日本にいてもできませんが、やはり実際に体験しなければ主観的に知ることはできません。その国にはどんな人がいて、どのような生活をしていて、どのような考え方を持っているのかは、実際に人と会って話してみなければわかりません。メディアから知ることができるその国についての情報やイメージが必ずしもその通りで

はなく、ほかの人は気付かない自分だけの気付きもあると思うので、自分自身でその地に赴き、自分目線で知ることが大切だと思います。

このような素晴らしい経験の機会をくださった、白聖同窓会を始めとする多くの方々のご支援に感謝し、これからの活動にも積極的に取り組んでいきます。

日本と英国

2年7組 金澤 青空

12時間のフライトを終えて日本に帰還した。いや、むしろ私の感覚としては、帰還してしまっただけ、という方が正しい。つまり、それ程私のイギリスでの生活は充実したものであったということだ。海外は初経験ではなかったが、今までのものでは何か違う感覚がした。おそらく、それは学校の仲間と共に過ごしたからであろう。同じ学校に通う者同士で、日々の様々な物事の楽しさを共有できたのはとても面白いことであつた。

私が約1ヶ月の研修で学んだ事は何だろうか。そう、自問してみる。自身のテーマとして「日本人とイギリス人の科学に対する考え方の違い」に着目していた。ニュートンやホーキングなど多彩な人材を輩出したイギリスは何か科学に対する考え方が日本とは異なるのではないか、と思っていた。もちろん日本も湯川秀樹や朝永振一郎など、私自身が尊敬している人物を数多く生み出した。しかしながら、大学の規模、実験施設の充実、ヨーロッパ内での共同研究など、現在日本が劣るといえる環境は多く考えつく。

実際にイギリスの研究室などを訪れることはなかったが、私は環境の差異ではなく人の差異を現地で感じ

取った。それは、私が科学についてイギリスの高校生に質問した時であった。難しいことを私が質問しても、1人1人全員が確固たる意見を持っていたのだ。私の経験上、(個人の感想で日本を一般化するのには誠に勝手なことではあるが)日本人が難しい事を質問されても「よく分からないけど...いいんじゃない?」のように、所謂無難な回答ですませるところだろう。イギリスの人々と話をするのはとても楽しかった。

このような機会を与えてくれた、両親、一高の先生方、またイギリスでの生活を支えてくださったホストファミリー、レンコムカレッジの生徒、先生に対して感謝申し上げます。

白聖の翼 第40回派遣団

引率者 千條 惇

白聖の翼 第40回派遣団(生徒10名、引率教員2名)は、平成30年3月2日(土)〜27日(水)の日程で、イギリスはコッツウォルズ地方にあるレンコムカレッジを拠点に研修を実施しました。3年連続で同じ学校を訪問することになりましたが、ホームステイでお世話になった家庭はいずれも素晴らしく、研修内容も回を重ねる毎に深化発展しており、とても良い研修となったと思います。

今回の派遣生徒は2年生が1名、残りの9名が1年生、男女比も男子2名で残りの8名が女子という、少々偏りがある編成となりましたが、唯一の2年生小野寺葉を団長として、渡航前の準備や現地での活動は、うまく統率がとれていたのではないかと思います。

留学生達が楽器や歌といった自分の得意なものを披露し合うインターナショナル・コンサートに参加した際、スコットランド民謡を起源とする

「蛍の光」を日本語で歌い、和声の美しさが評判を呼びました。また、昨年度に引き続き披露したさんざ踊りでは、現地の高校生と打ち解ける良いきっかけになったようです。レンコムカレッジの先生方やホストファミリーもたくさん参観してくれましたが、皆一様に興奮していました。

我々が滞在したコッツウォルズ地方は、イギリス人でさえ一生のうちにいつか住んでみたいと思っている、美しい自然と落ち着いた町並み、そして穏やかな人柄が息づく、イギリスの心のふるさととも呼べるような場所です。生粋のイギリス文化に直に触れ、毎日ホストファミリー達とコミュニケーションを重ねることが、多感な時期にある彼らにとつてどれほど大きな影響を与えたことでしょうか。日本を飛び出して異文化に身を置けば、それだけで人は大きく成長します。その時、紳士淑女を体現する土地で生活できた経験が、将来のグローバルリーダーになるであろう彼らに与えたものは計り知れません。

また、今回の研修では、SG課題研究との連動も試みました。自分が日本から持参したテーマについてレンコムカレッジの生徒達に質問したり、ホストファミリーと話し合うなど、思った以上に生徒達は意欲的に取り組んでいました。さよならパーティでは、その成果をスピーチとして発表しましたが、ホストファミリー達が、自分達が気づけなかった自国の文化の一端を示されたのか、遠く海の向こうの日本ではどうなのか、という点などに非常に注目していただき、とても意義深い時間を過ごすことができたと思います。

このような貴重な機会をいただけたこと、心より白聖同窓会のご支援に感謝しております。

国体・インターハイ・全国高総文祭 全国大会出場今年も続出！

登山部

頂きに立ちて

3年7組 山下 ちひろ
私は3年連続でインターハイに出場することができました。最終学年の宮崎インターハイは、最も印象深いものになりました。大会では、課題テストや読図において、全員が満点を取りました。3日間の登山行動では、多少バランスを崩す場面がありましたが、山に登ることが楽しくて正直詳しく覚えていません。その他、細かいミスはあったものの全員が3日間本気で取り組むことができたので最終日の登山行動後は充実感で満たされていました。同時に、私にこのような環境を与えてくださった顧問の先生や両親のありがたさも実感しました。



男子テニス部



全国大会に出場して

3年4組 橋本 大輔
はじめに、白聖同窓会の皆様におかれましては、物心両面にわたる日頃より部活動を応援していただき、心より感謝申し上げます。私は、高校入学当初、全国大会で1勝することを目標に掲げました。シングルスでは2年生までなかなか結果が出ず、全国大会で1勝どころか、その全国大会に出場することすら叶わない苦しい日々が続きました。しかし、あきらめずに忍耐強く練習を積み重ねるうちに、苦しい状況にあってもチャンスが訪れるまで冷静に状況を見極める粘り強いプレーができるようになり、リードされていても逆転勝利するゲームが増えてきました。そのようにして習得したブレイクスタイルで、県高総体、そして続く東北大会で個人優勝を果たすことができたことは、私にとってこの上ない喜びでした。イン

女子テニス部



インターハイに出場して

3年7組 千田 彩華
まずは、部活動とともに練習に取り組んできた仲間や、支えてくださった顧問の先生、家族、そして応援してくださった同窓会の

ターハイや全日本ジュニア選手権大会では、全国の強豪を相手に先に攻め、持てる技を果敢に繰り出し、速いテンポでゲームを組み立てることが思うようにできませんでした。この悔しくも名誉ある経験を生かして、これから何事においても先んじて攻めの姿勢で取り組んでいきたいと思えます。

このように、大好きなテニスに思う存分励むことができたのも偏に白聖同窓会、そして両親、顧問の先生、テニス部の仲間の温かいご支援があったからこそだと思います。本当にありがとうございます。

陸上競技部



国民体育大会に参加して

3年3組 佐々木 壘
私は第74回国民体育大会の陸上競技に出場し、8位でした。この大会に向けて、ラストで競り負けないように持久的な練習を多く行いました。また、800m

方々などたくさんの人に感謝申し上げます。

私たちは8月に宮崎県で行われたインターハイに団体戦で出場しました。大会では、奈良県代表の登美ヶ丘高校と対戦しました。結果は0-3で負けてしまいました。全国のレベルの高さを感じました。ダブルスでの接戦や、シングルスでの奮闘で流れが変わりそうな場面はありましたが、相手の隙の少なさに自分たちのペースに完全には持っていくことができませんでした。悔しさもありましたが、インターハイという大舞台でテニスをできたことは貴重な経験となりました。

最後に、インターハイを経験して3年間の部活動生活を締めくくることができて、本当に嬉しく思います。来年は、インターハイでの勝利を目標に頑張りたいと思います。ありがとうございます。

囲碁将棋部

全国大会に出場して

2年3組

石川 怜

私たち囲碁将棋部は、7月30日(7月31日に佐賀県で行われた全国高等学校総合文化祭将棋部門の団体戦)に出場してきました。惜しくも決勝トーナメントで横浜サイエンスフロンティアに敗れてしまいました。ベスト12という結果を出すことができ、嬉しく思うと同時に、来年こそは去年の先輩方が成し遂げられなかった全国優勝を成し遂げてみせると、出場した三人で強く誓い合いました。そして、引率の川村先生と大沼先生、駒の動かし方すら知らなかった状態から一年で全国の舞台で戦えるレベルになるまで丁寧(に)将棋を教えて下さった佐々木先生、私たちを支えてくださった全ての方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

に関しては高校最後のレースになるということで、1日1日の練習に妥協をせずに臨むことができました。本番では自分が積み重ねたものに自信を持つことができ、予選、決勝ともに全力を尽くすことができました。大会を通じて、私は目標を達成するために必要な努力が必要だと分かりました。私は今まで長い距離を走るのが苦手だったのでもありそのような練習をやっていませんでした。しかしそれこそが乗り越えるべきものである。日々丁寧に走るように心がけ、克服することができました。このような結果を残すことができたのは激励してくださった先生や応援して下さった方のお力添えがあったことと心から感謝しております。ありがとうございます。これからも高校最後の大会まで走り抜きます。

生物部

2019さが総文に参加して

3年7組

鷹鷲 慧



2019年7月27日から29日にかけて開催された全国高総文祭に参加しました。自然科学部門は、佐賀大学を会場に全国から158校、約800名が参加しました。生物部が参加したポスター(パネル)発表部門では、全国の代表の40チームの研究について、ポスターセッションが行われました。8人の審査員に対する研究の説明と質疑応答によって評価され、更に参加生徒による投票、事前提出の論文を総合して順位が決定されました。本校は、「特定外来生物に依存する絶滅危惧種ミチノクケマダラカミキリの生息地の保全」というテーマで発表しました。こ

ます。本当にありがとうございます。これからの部活動では、全国優勝という悲願を達成するため、部活の仲間や他校の同じ囲碁将棋部の人たちの対局を通して研鑽を積み、日々棋力向上に努めていきたいと思っています。

美術部

全国高等学校総合文化祭に参加して

3年2組

佐藤 萌



大切な自分の作品を連れて向かったのは気温35度の佐賀県。今年の夏はここに約400点の美術・工芸作品が集まりました。出品作品はどれも美しく、緻密で、大胆で、そのすばらしさに圧倒されました。また、作品をつくった方々と話す中で、鑑賞者との見解と作者の意図には共通点と相違点があり、作品を見る人の解釈が自由

の研究は、特定外来生物とそれに依存して生息する絶滅危惧種の悩ましい関係について、2年間の調査結果をまとめたものです。地域に根ざした興味深いテーマであるとの評価をいただきましたが、残念ながら、2年連続の入賞は果たせませんでした。他県のレベルが高い研究や、意欲的な活動に触れることができてとても刺激になりました。

全国高等学校ファッションデザイン選手権大会に参加して

2年5組

田村 唯季子



私は部員2人と8月25日に弘前市で行われた第19回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会の本選に出場しました。夏休み前から制作を続けて、素材や小物にもこだわり、「メランコリック(憂

であることと創作する人には伝えたいことがあるという創作の異なる側面を感じ、改めて美術というものの難しさも感じました。今後よりよい美術の未来のために自分にできることを探し続けていきたいと思っています。

書道部

全国高総文祭に参加して

3年4組

佐藤 龍晟



全国高等学校総合文化祭に参加し、全国の作品との交流を通して大きな成長を遂げることができました。展覧会では、全国から集まった作品を鑑賞し、その表現の多様さに驚きました。私の作風と通ずるもの、そうでないもの、全てから大きな刺激を得られました。今後の創作活動にいかしたいと思います。交流会では、佐賀県の書道家「中村梧竹」に因んだ企画や、

鬱」という感情を表現した満足のかい衣装をつくることができました。このような衣装の制作は初めてでしたが、全国の高校生がくった様々な衣装やウォーキングなどの表現方法に触れたり、仲間と協力して制作を行ったりし、良い刺激を受けました。この経験を生かし、これからも様々な作品の制作に取り組んでいきたいです。



羽をかたどった和紙に言葉を書き、気球型のオブジェに張り付ける「バルーン作成」を行いました。どの企画も地域の特色を生かしたもので、交流を楽しむとともに佐賀のよさを存分に堪能することができました。私がこの大会に参加できたのは、ひとえに先生方のご指導と支え合った仲間のおかげであります。この経験を糧にして、これからも更なる自己の研鑽に努めてまいります。

放送委員会



夏の全国大会に参加して

放送委員会では、今年もNHK杯全国高校放送コンテストと総合文化祭の全国大会に参加しました。NHK杯では全部門準々決勝進出という結果でした。ですが、全国の高校生の作品や発表から刺激を受け、新しい目標をもつよい大会になったと思います。他校作品では身近で素直な疑問を取り上げ、多くの高校生の共感を得ていた作品がありました。また、この

白聖同窓会 Web ページの開設について

同窓会の活動を多くの会員に知っていただき、会員相互の交流に役立てたいという趣旨で、平成31年3月31日に開設しました。ぜひご活用願います。

hakua-dousoukai.jp



Facebook アカUNT 白聖同窓会
Twitter アカUNT 白聖同窓会



※画面はイメージです

部活動の記録

平成30年12月～令和元年11月の大会結果について

運動部

弓道部

【H30東北高校弓道選抜大会】
女子個人 小野寺叶 個人決勝進出
【H30全国高校弓道選抜大会】
女子個人 小野寺叶 予選
【H30新人戦県大会】
女子団体 準優勝（東日大会出場獲得）
射道優秀賞獲得
決勝トーナメント
T1回戦 盛一8ー7誠桜
準決勝 盛一11ー9盛三
決勝 盛一7ー16福工

【高総体県大会】
女子個人 小野寺叶 2位
女子団体 3位
決勝リーグ 盛一12ー15福岡
盛一11ー13黒工
盛一12ー10福工

【東北高校弓道選手権大会】
女子個人 小野寺叶 優勝
東北選手権インターハイ
女子個人 小野寺叶
女子団体 準優勝
【全国高校弓道選抜大会県予選】
男子団体 準優勝 射道優秀賞獲得
東北選抜出場
決勝 盛一7ー6盛三
盛一9ー7不来方
盛一7ー9花北

【剣道部】
【H30東北高校剣道選抜優勝大会】
予選リーグ第1試合
盛一1ー2秋田南
第2試合
盛一2ー2仙台育英
【県高校選抜剣道大会】
男子団体 3位
優秀選手賞 中瀬敬太
1回戦 盛一 盛北 4人残り
2回戦 盛一 花東 3人残り
準々決勝 盛一 福岡 2人残り
3位決定戦 盛一 花南 2人残り
【高総体県大会】
男子団体戦 予選リーグ
盛一2ー3黒工
盛一2ー1宮古工
女子団体戦 予選リーグ
盛一0ー2白百合
男子個人戦
徳高 2回戦
小、中瀬、平浜 3回戦
山内、高橋 4回戦

【柔道部】
【H30東北高校柔道選抜大会】
女子個人 小野寺叶 優勝
東北選手権インターハイ
女子個人 小野寺叶
女子団体 準優勝
【全国高校弓道選抜大会県予選】
男子団体 準優勝 射道優秀賞獲得
東北選抜出場
決勝 盛一7ー6盛三
盛一9ー7不来方
盛一7ー9花北

【新入戦県大会】
男子団体 ベスト8
1回戦 盛一4ー0水沢
2回戦 盛一3ー2花南
準々決勝 盛一0ー5盛南
女子団体 ベスト8
1回戦 盛一2ー0一関修紅
2回戦 盛一1ー0岩谷堂
準々決勝 盛一0ー3福岡
男子個人
徳高 1回戦
小村 4回戦
下権谷 3回戦
女子個人
姉帯、齊藤 2回戦
樋口 3回戦

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

【柔道部】
【H30全国高校柔道選抜大会】
女子団体戦
先鋒 古館愛夏、中堅 大平愛依、大將 小野寺風花
1回戦 盛一0ー3羽黒
男子 60kg級 大平剛右 ベスト8
【H30全国高校柔道選手権大会】
男子 60kg級 大平剛右 1回戦
【高総体県大会】
男子団体戦
盛一4ー1一戸
盛一3ー2大船渡東
女子団体戦
盛一0ー5一関学院
2回戦 盛一2ー0大船渡
準々決勝 盛一2ー1宮古
準決勝 盛一0ー3盛南
【県高校1・2年体重別選手権大会】
男子 60kg級 阿部喜斗 2位
女子 52kg級 古館愛依 3位
女子 57kg級 大平愛依 3位
【全国高校柔道選手権県大会】

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

【柔道部】
【H30全国高校柔道選抜大会】
女子団体戦
先鋒 古館愛夏、中堅 大平愛依、大將 小野寺風花
1回戦 盛一0ー3羽黒
男子 60kg級 大平剛右 ベスト8
【H30全国高校柔道選手権大会】
男子 60kg級 大平剛右 1回戦
【高総体県大会】
男子団体戦
盛一4ー1一戸
盛一3ー2大船渡東
女子団体戦
盛一0ー5一関学院
2回戦 盛一2ー0大船渡
準々決勝 盛一2ー1宮古
準決勝 盛一0ー3盛南
【県高校1・2年体重別選手権大会】
男子 60kg級 阿部喜斗 2位
女子 52kg級 古館愛依 3位
女子 57kg級 大平愛依 3位
【全国高校柔道選手権県大会】

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

【柔道部】
【H30全国高校柔道選抜大会】
女子団体戦
先鋒 古館愛夏、中堅 大平愛依、大將 小野寺風花
1回戦 盛一0ー3羽黒
男子 60kg級 大平剛右 ベスト8
【H30全国高校柔道選手権大会】
男子 60kg級 大平剛右 1回戦
【高総体県大会】
男子団体戦
盛一4ー1一戸
盛一3ー2大船渡東
女子団体戦
盛一0ー5一関学院
2回戦 盛一2ー0大船渡
準々決勝 盛一2ー1宮古
準決勝 盛一0ー3盛南
【県高校1・2年体重別選手権大会】
男子 60kg級 阿部喜斗 2位
女子 52kg級 古館愛依 3位
女子 57kg級 大平愛依 3位
【全国高校柔道選手権県大会】

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

【柔道部】
【H30全国高校柔道選抜大会】
女子団体戦
先鋒 古館愛夏、中堅 大平愛依、大將 小野寺風花
1回戦 盛一0ー3羽黒
男子 60kg級 大平剛右 ベスト8
【H30全国高校柔道選手権大会】
男子 60kg級 大平剛右 1回戦
【高総体県大会】
男子団体戦
盛一4ー1一戸
盛一3ー2大船渡東
女子団体戦
盛一0ー5一関学院
2回戦 盛一2ー0大船渡
準々決勝 盛一2ー1宮古
準決勝 盛一0ー3盛南
【県高校1・2年体重別選手権大会】
男子 60kg級 阿部喜斗 2位
女子 52kg級 古館愛依 3位
女子 57kg級 大平愛依 3位
【全国高校柔道選手権県大会】

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

【柔道部】
【H30全国高校柔道選抜大会】
女子団体戦
先鋒 古館愛夏、中堅 大平愛依、大將 小野寺風花
1回戦 盛一0ー3羽黒
男子 60kg級 大平剛右 ベスト8
【H30全国高校柔道選手権大会】
男子 60kg級 大平剛右 1回戦
【高総体県大会】
男子団体戦
盛一4ー1一戸
盛一3ー2大船渡東
女子団体戦
盛一0ー5一関学院
2回戦 盛一2ー0大船渡
準々決勝 盛一2ー1宮古
準決勝 盛一0ー3盛南
【県高校1・2年体重別選手権大会】
男子 60kg級 阿部喜斗 2位
女子 52kg級 古館愛依 3位
女子 57kg級 大平愛依 3位
【全国高校柔道選手権県大会】

【硬式野球部】
【春季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一5ー0花北
2回戦 盛一1ー2盛四
【全国高校野球選手権右大会】
2回戦 盛一7ー6盛工
（9回サヨナラ）
3回戦 盛一2ー4一関学院
【秋季東北高校野球県大会】
1回戦 盛一7ー5一関工
2回戦 盛一16ー9宮古商
準々決勝 盛一1ー4盛商

【サッカー部】
【2019 J-LEAGUE 2部】
8チーム中5位 2部残留
第1節 盛一1ー4黒北
第2節 盛一0ー1遠野III
第3節 盛一2ー2関二
第4節 盛一3ー0花北
第5節 盛一1ー2水沢
第6節 盛一2ー0盛岡誠桜
第7節 盛一1ー4専北B
第8節 盛一1ー1黒沢尻北
第9節 盛一2ー2関二
第10節 盛一3ー0花北
第11節 盛一1ー1水沢
第12節 盛一1ー5盛岡誠桜
第13節 盛一6ー3専北北上B
第14節 盛一1ー0金ヶ崎
盛一3ー1盛三
盛一1ー4専北
盛一5ー0高田
盛一0ー6遠野
盛一4ー3釜石
盛一0ー4盛商

[illegible]

14

AT「檜垣 綾子 DEF 宮野紗也子 SUM 一条佳穂 谷藤沙帆 ベストディベーター賞 チームB 準優勝 CON 山田瑠衣子、 橋本 楓子 AT「伊藤 優夢 DEF 岩脇芽生 SUM 澤村颯季 盛岡一高として1チームが 全国大会出場	【演劇部】 【第42回岩手県高総文祭演劇部門発表会】 第45回岩手県高等学校演劇発表会 優良賞 「小規模で愛憎なわたり」の冒険」 盛岡一高演劇部作 生徒講師委員特別賞 美しかったで賞 白岩咲樹、作山優結	【音楽部】 【H30第28回岩手県合唱小アンサンブルコンテスト】 金賞 【全日本合唱コンクール岩手県大会】 金賞 【全日本合唱コンクール東北支部大会】 銀賞	【軽音楽部】 【第42回岩手県高等学校総合文化祭第19回軽音楽発表会】 優秀賞 （グループ名）The Giggles （曲名）Still Alive 作詞・作曲 大庭龍之介 大庭龍之介、畠山真緒、原颯馬、杉あおば	【書道部】 【第24回全日本高校・大学生書道展】 準優秀 馬場桃香 【第41回全国公費千字文大会】 条幅部門 優秀賞 三ヶ森風香 優秀賞 田村水、大津武、馬場桃香 秀作賞 永井翔夏、藤原幸生 半紙部門 特選 永井翔夏 優秀賞 吉田智哉、藤原幸生 秀作賞 三ヶ森風香	【美術部】 【第20回高校生国際美術展】 奨励賞 佐藤龍晟 佳作 多田福望、稲垣花音、	【第15回岩手日報高書展】 優秀賞 佐藤龍晟 秀逸賞 稲垣花音 入選 菊池真由、多田福望、馬場桃香 【第17回岩手県高等学校書道作品コンクール】 奨励賞 馬場桃香、田村水 【第42回岩手県高等学校総合文化祭書道部門】 全紙の部 漢字・仮名部門 優秀賞 佐藤龍晟 田村水 入選 多田福望、馬場桃香 菊池真由、大津武、藤原暁、永井翔夏、大津枝里子、三ヶ森風香、吉田智哉	【第99回全日本学生書道展】 日本テレビ賞 馬場桃香 学会優秀賞 学会奨励賞 三ヶ森風香 【吹奏楽部】 【H30全日本アンサンブルコンテスト岩手県大会】 打楽器四重奏 銀賞 サクソフロン四重奏 銀賞 【H30第27回日本吹奏楽指導者協会（JBA）東北支部主催管打楽器ソロコンテスト東北大会】 木津今日子 銀賞 菅野桜奈（Mar） 銀賞 瀧本優奈（Mar） 銅賞	【生物部】 【H30第65回岩手県高等学校理科研究発表会並びに第41回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】 研究発表生物部門 ○印は発表者 最優秀賞 発表題「絶滅危惧種ミチノクケマダラカミキリの生息地の保全及び寄主植物オオハングソウの生態」 ○鷹背慧 ○吉田智哉 盛合琢斗、二橋謙太、上山渉、酒井颯太 ポスター（パネル）部門 最優秀賞・全国高総文祭推薦 発表題「絶滅危惧種ミチノクケマダラカミキリの生息地の保全及び寄主植物オオハングソウの生態」 ○鷹背慧、吉田智哉、盛合琢斗、二橋謙太、上山渉、酒井颯太 【第43回全国高等学校総合文化祭自然科学部門】 ポスター（パネル）発表 文化連盟賞 「特定外来生物に依存する絶滅危	惧種ミチノクケマダラカミキリの生息地の保全」 鷹背慧、吉田智哉、盛合琢斗 【天文部】 【H30第41回岩手県高等学校総合文化祭自然科学部門研究発表会】 研究発表 地学部門 優秀賞 発表題「大気光学現象に関する研究その2」 大向聡士、佐藤慧、廣瀬慎一、大向聡士、佐藤慧、小成晶紀、佐藤みゆき、玉木桃香、大清水優太、八重樫颯 発表題「太陽黒点に関する研究」 廣瀬慎一、大向聡士、佐藤慧、小成晶紀、佐藤みゆき、玉木桃香、大清水優太、八重樫颯 ポスター（パネル）部門 奨励賞 発表題「大気光学現象に関する研究その2」 大向聡士、佐藤慧、廣瀬慎一、大向聡士、佐藤慧、小成晶紀、佐藤みゆき、玉木桃香、大清水優太、八重樫颯
【第42回全国高等学校文芸コンクール俳句部門】 優良賞 村井真斗	【文学研究部】 【第42回岩手県高等学校総合文化祭文芸部門兼岩手県高校生文芸コンクール】 小説部門 三浦香穂 優良賞 短歌部門 北海道・東北文芸大会 俳句部門 村井真斗 入選	【物理部（無線班）】 【第61回 ALL Jコンテスト】 電信電話部門 マルチオベ、ジュニア 全国2位 ○上郡輝・金澤空矢・佐々木あゆ 平部輝 入選	【美術部】 【第19回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会】 一次予選通過・本選（全国大会） 出場 田村唯李子、佐藤里佳子 【第42回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展】 絵画部門 特賞 小倉博雅 入選 吉田小百合、田村唯李子、松小功晃、分須晴香 佐々木彩那	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌	立休部門 入選 野崎恵、昆野真唯 【第43回全国高等学校総合文化祭美術工芸部門出品】 佐藤萌

◎放送委員会

【H30第22回東北高等学校放送コンテスト宮城大会】

アナウンス部門 入選
鎌田花華 奨励賞

朗読部門
西森菜々花 奨励賞
ラジオキヤンペーン部門
入選 イケメンボイスが届かない
テレビキヤンペーン部門
優良賞 HR

【第42回若手県高等学校総合文化祭放送部門大会兼第66回NHK杯全国高校放送コンテスト岩手県大会】

アナウンス部門
鎌田花華 優秀賞

全国大会、東北大会出場

佐藤春菜 優秀賞

朗読部門
西森菜々花 優良賞
全国大会、東北大会出場

テレビドキュメント部門
最優秀賞
「今日も私は仕事第一」
全国大会出場
創作テレビドラマ部門
優秀賞「仮面舞踏会」
全国大会出場

【第66回NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス部門】

鎌田花華 準々決勝
朗読部門
西森菜々花 準々決勝
テレビドキュメント部門
準々決勝「今日も私は仕事第一」
創作テレビドラマ部門
準々決勝「仮面舞踏会」

【令和元年度高校生交通安全テレビCMコンテスト】

特別賞「横断歩道選手権 2019」

◎理科

【いわての高校生サイエンス&エンジニアリングチャレンジコンテストfor IJC】

1位 岩手県知事賞 欧州(CERN)派遣研修参加
盛岡第一高等学校
理科科 Mori オカシデ
金澤青空、佐々木悠人、中村俊貴

◎理科

【科学の甲子園全国大会】

総合25位
西原広樹 藤本翔、盛合琢斗、鎌田千里、下村花未、長谷部大翔、平部朗、上部輝

★部活動の最新情報はウェブでどうぞ！ www2.iwate-ed.jp/mo1-h/

平成31年度 大学合格者数一覽

■国立大学

大学名	現役	過卒
北海道大	4	5
帯広畜産大		1
北海道教育大	1	
室蘭工業大	1	
弘前大	5	2
岩手大	29	4
東北大	33	15
宮城教育大	4	3
秋田大	4	3
山形大	1	1
茨城大	1	1
筑波大	1	
埼玉大	1	1
千葉大	7	2
お茶の水女子大	1	1
電気通信大	2	

大学名	現役	過卒
東京大	8	5
東京外国語大	1	
東京学芸大	4	
東京工業大	2	
東京芸術大	1	
東京農工大	1	
横浜国立大	1	1
新潟大	1	1
富山大	1	1
金沢大	2	
京都工芸繊維大		2
奈良女子大	1	
京都大	2	
合計	120	50

■公立大学

大学名	現役	過卒
岩手県立大	1	
国際教養大		1
高崎経済大		2
首都大東京	2	1
横浜市立大		1
都留文科大	2	
山梨県立大		1
新潟県立大	1	
合計	6	6

■私立大学

大学名	現役	過卒
青山学院大	2	3
中央大	3	12
東京理科大	4	6
法政大	10	12
明治大	9	18
立教大	3	3
慶應義塾大	3	1
早稲田大	13	9
合計	47	64

■医学部医学科

大学名	現役	過卒
弘前大	1	1
東北大	2	
秋田大	2	2
山形大		1
千葉大		1
岩手医科大	5	12
自治医科大	1	
獨協医科大		1
東北医科薬科大	1	5
日本医科大		3
大阪医科大		1
順天堂大		1
東京慈恵医科大		1
東京医科大		1
合計	12	30

16